

(別紙2)

審査の結果の要旨

氏名 日比 優子

人は時々刻々と変化する日常環境の中から必要な情報だけを選択し、行動する。人の情報選択機能である選択的注意には、入力情報を制限するための機能(知覚のための選択)のみならず、的確な運動出力を行うために膨大な入力情報を限定するための機能(行為のための選択)が含まれている。本論文は、とりわけ、行為のための選択的注意機能に焦点をあてた実験心理学的研究である。全4章から構成され、6つの実験を行っている。

選択的注意の課題では、被験者は、標的対象とその他の対象(非標的対象)を区別する視覚属性(標的定義属性)に基づいて標的対象を選択し、標的対象中のあらかじめ課題として決められた属性(課題関連属性)に対して、実験者によって設定された反応を実行する。被験者は、実験中、課題関連属性と反応の対応関係(刺激-反応マッピング)を保持しておかなければならない。本論文では、このような選択的注意課題を遂行している際に、非標的対象中の課題に関連しない属性(課題非関連属性)が、標的対象に対する反応にどのように影響するのかを検討するために、一連の実験を行っている。従来から、選択的注意課題を遂行する時に、標的対象の課題関連属性と反応マッピングに対して、非標的対象の課題関連属性と反応のマッピングが影響すること(エリクセン効果)、また、標的対象の課題関連属性と反応のマッピングに対して、標的対象の課題非関連属性と反応との長期にわたる学習によって形成されたリンクが影響すること(反応適合効果)が知られている。日比氏は、これまでほとんど検討されてこなかった非標的対象の課題非関連属性の処理に注目し、反応とのリンクを自動的に活性化させる課題非関連属性を用いることによって、非標的対象の課題非関連属性への影響を調べた。一連の実験を行った結果、非標的対象の課題非関連属性が標的対象の選択に影響することを明らかにした。これは、エリクセン効果や反応適合効果とは性質の異なる競合過程が存在し、複数の刺激-反応マッピングや刺激-反応リンクが相互に作用しながら競合を解消していく過程が選択的注意であることを示している。日比氏は、異なる属性モジュール間の刺激と反応の対応づけが、課題要求からのトップダウンによって調節されるようなモデルを提案した。これは、本研究の実験結果のみならず、これまでに報告されている選択的注意に関する実験結果も統一的に解釈しようとするものである。

統制実験が十分ではないために実験結果の解釈にやや曖昧な点が残っているが、本論文は、行為のための選択的注意機能に注目した数少ない研究であり、提案されたモデルも今後の選択的注意機能の研究に新たな枠組みを与えるものである。本審査委員会は、本論文が博士(心理学)の学位を授与するのにふさわしいものであるとの結論に達した。